

令和3年度 第3回飛騨市総合政策審議会 議事録

【日時】 令和3年12月23日（木） 13時00分～16時30分

【場所】 飛騨市役所 西庁舎3階 大会議室

【出席委員】 18名中16名

【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 齋藤会計管理者 泉原総務部長
藤井市民福祉部長 横山環境水道部長 野村農林部長 畑上商工観光部長
森基盤整備部長 中畑消防長 佐藤病院管理室長 野村教育委員会事務局長
岡田議会事務局長 大庭河合振興事務所長 田ノ下宮川振興事務所長 森田神岡振興
事務所長 上畑財政課長

(18名)

【事務局】 谷尻企画部長 三井総合政策課長 土田係長 井口主査 上手主任（5名）

【傍聴者】 2名

【会次第】 1. 開会

2. 市長挨拶

3. 会長挨拶

4. 協議事項

①令和4年度予算主要事業の概要（案）について …… 資料①

②自由討議

5. その他

今後のスケジュール …… 資料②

6. 閉会

【議事内容】

1. 開会【谷尻企画部長】

令和3年度第3回飛騨市総合政策審議会を開催する。

本日は2名がご都合により欠席であるが、委員18名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第6条の規定により定足数に達していることを報告する。

2. 市長挨拶【都竹市長】

コロナも若干の増加傾向がみられ、オミクロン株など感染拡大の不安が払拭されない中で迎える年末となっている。ただ、飛騨市では10月中旬以降感染者が出ておらず、成人式や三寺まいりも感染対策を万全にしたうえで実施するなど、検査体制の充実を軸に感染状況を注視しながら社会経済活動を回していく取り組みを進めていきたいと思っている。今日の政策審議会の趣旨は、令和4年度予算の事業の柱立てがおおよそ出そろったため、その内容についてご意見賜りたいと思っている。10月に開催した前回の総合政策審議会の段階で政策協議が半分程度終わっており、その後も引き続き今月半ばま

で徹底した協議を進め、現在は予算の査定をしている。今日紹介する事業については予算額の多寡はあるにせよ、事業化をされていくものとして議論をお願いしたい。

コロナで約2年間世の中の動きが止まっていた中、最近は感染者数も低下傾向にあり、3回目のワクチン接種や治療薬の登場など、周りの環境もどんどん変化している。令和4年度はコロナと付き合いながら経済活動を回せる状況が整っていく想定のもと、これまで止まっていた地域経済、地域振興策を復活させていくことと、この2年間の沈み込んだマインドを前向きなものにしていく空気感を作っていくことを大きなテーマとしている。政策としては「積極的な地域振興」を一つ大きな柱としているが、それに関連してこれまでの市政の中で力を入れて取り組めていなかった自然環境や自然保護、町並み景観の保全のあたりを「未来に遺す地域資源の保全」として取り組んでいきたいと思っている。また、弱い立場の方々への支援や医療福祉政策をはじめ、地域振興や産業振興などの特色ある飛騨市で取り組んできた事業を深化させていくための議論を進めてきた。ここまで議論してきた中で、大きな目玉のものがあるわけではないが、一つ一つの政策の質が高いものに仕上がっており、飛騨市役所全体の政策能力が大きく高まっている手ごたえを感じている。

今日はそういったことで上がってきた政策について皆様方の忌憚のない意見をいただき、取り込めるものはこの後からでも取り込んで予算政策を仕上げたいと思っているので、長時間となるが積極的なご発言をお願い申し上げます。

4. 会長挨拶【会長】

コロナが出てきてから約2年が経過し、世の中の生活様式が随分と変わった印象がある。そして、在宅勤務や出張、会議などオンライン化が進んだことで世の中がかなり効率的になってきた。その一方で直接対面しないと味わえないことも当然あり、そういった部分の価値が見直されていると思っている。そういった中、来年度の政策として、自然環境や町並み景観に力を入れることは非常にいい視点だと思った。私自身も種蔵に関わっている中で、来年度の方針を関係者で語る場を設けており、住民自身は少なくなっているものの、新しく関係人口という形で関わる方が増え、様々な形で輪が広がっている実感もある。11月に飛騨高山大学のことがいろいろと発表され、このコロナで暗いニュースの中でとても明るいニュースであり、100人の大学生が飛騨古川の町に来るのは非常に楽しみである。そういった飛騨市の素敵な未来のことも考えながら、皆さんといろいろ対話ができればと思っている。

5. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①令和4年度予算主要事業の概要案について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項①について説明。(資料①)

【会長】 協議事項①について、ご意見ご質問をいただきたい。

【K委員】 「地域脱炭素化に向けた再生可能エネルギーの利活用研究」について詳細な内容を伺いたい。

- 【土田係長】 現在、飛騨市内は水力発電が盛んであるが、送電網等の関係で新たに小水力発電を建設しても電力の活用ができないため、その電気を水素へ転換するといったことができないかや、飛騨市内で作っているエネルギーをふるさと納税で市外の方に活用いただけないかの協議を進めており、そのあたりの研究を来年度しっかりしていきたいと考えている。
- 【K委員】 「育休・産休の取得に積極的な事業所への支援」とあるがこの事業所は医療機関や介護事業所の職員に対してということか。
- 【藤井部長】 職種については具体的にまだ検討中であるが、基本的には取得に積極的な事業所への奨励金や代替職員の人件費の助成制度として、男性職員も含め広く考えていきたいと思っている。
- 【B委員】 「森林作業路の機能向上強化にかかる整備の支援」について、地域で申請したものに対しての支援なのか、地域から市に要望したものに対しての支援になるのか伺いたい。
- 【野村部長】 作業路については森林組合を中心に行っていただいております、その道が大雨などで崩れたりするので、一部に砂利を引いたり、側溝などを入れたりして機能向上を図ることがまず一つある。集落で管理している作業路についても、例えば専門家を呼んで道路の工事や、資材を提供する支援も考えており、我々も出向いて一緒に検討しながら進めていきたいと考えている。
- 【B委員】 来年度から5か年計画で市の森林整備計画が入り、新たに作業路を増やしていくことになるので質問するが、それについては工事が完了してから行うということか。
- 【野村部長】 新しく作業路を引く場合、機能向上を考えることになると思うが、既存のものを再利用や補修しながら間伐などをする場合も、柔軟に対応していきたいと考えている。
- 【B委員】 「空き家情報サイト「住むとこネット」の賃貸物件登録の促進」とあるが、空き家に対して、築年数や居住可能人数などの評価を市として実施し、そういった情報を出していくことは考えているか。
- 【谷尻部長】 「住むとこネット」の中に掲載している空き家についてはそういった情報を掲載しているが、それ以外の空き家の情報は個人情報になるため表に出せないのが現状。
- 【B委員】 「集落有集会施設の解体費用に対する支援」とあるが、その集会所の中に市の防災備蓄品の発電機などがあり、その処分については何か考えているか。
- 【野村事務局長】 現在は建物自体の解体支援を考えている。建物の中身の処分については今後検討させていただく。

- 【B委員】 それでは中身のものは持ち主で処分するといった対応になるのか。
- 【土田係長】 防災備蓄品については今後も必要であり、地区ごとでどこに防災備蓄品を置くのがいいのかは個別の案件になるため、相談しながら一番いい方法を一緒に検討させていただきたいと考えている。
- 【都竹市長】 集落有の集会施設を取り壊すときは、まずその機能を別のところに代替させるということを経験していただく必要がある。何かあった時にその地区の防災備蓄はどの地区がカバーするかを決めてそこへ移すなど、そのあたりは地区によって異なってくるので、具体的に相談があった段階から話し合っていて考えていくことになる。
- 【B委員】 最近県内外から移住者が増えており、不動産業者から空き家を購入して住んでいる方も多し。購入した時は良くて何年か住むと改修したい箇所が出てくるようで、そういった場合に改修を支援する制度がつかないか。
- 【谷尻部長】 現在は空き家を借りたり購入する前に改修する場合の補助制度は用意している。
- 【B委員】 移住してからだとそれがもう使えないということか。
- 【谷尻部長】 住宅リフォームの補助金を活用いただければと思っている。
- 【都竹市長】 移住者も住んでしまえば市民と一緒にあり、あくまでも移住前の段階で線引きをしている。そのため移住後の改修については、市民の皆様を対象に住宅のリフォーム助成制度があるのでそちらで対応いただくこととしている。
- 【O委員】 「事業者における従業員の資格取得の支援」について、業種によって様々な資格があるが資格取得の種類は限定されるか。また、補助金額が対象経費の2分の1で上限5万円と書いてあるが、受ける資格や講習等によってかかる費用は様々で、事業所の規模によっても資格を取得する従業員の人数にも差があると思われる。上限5万円とした理由があれば教えていただきたい。
- 【畑上部長】 資格の種類については、様々な業種にヒアリングし、幅広い資格を対象とする予定としている。対象経費については、取得する資格によって必要な経費が異なることは承知しているが、細かい制度設計が難しく取得にかかる経費等を考慮し5万円を上限とさせていただいた。
- 【L委員】 「古川地区におけるスポーツ学童の開設」とあるが、これは今神岡で実施しているスポーツ学童と同じものか。
- 【野村事務局長】 神岡で実施しているスタイルを古川でも実施したいと考えている。
- 【F委員】 「ケアマネ参画による避難行動要支援者個別避難計画作成の試行実施」について、要支援者の状態や自宅などを把握しているケアマネが避難計画に参画するのは非常にいいことであるが、委託事業所のケアマネが計画に参画し、作成経費として1件当た

り 7,000 円支払われるイメージか。通常業務の中でやるとなると 7,000 円の扱いがどうなるのかも含め教えていただきたい。

【藤井部長】 今まで要支援者の個別支援計画を作っていたが、そこに専門的な方の視点が抜けていたため、より実効性のある計画にするために令和 4 年度は事業所に委託し、試行的にケアマネの方に参画いただこうと考えている。7,000 円の根拠については、令和 3 年度から地方交付税措置として 1 件 7,000 円となっているためその数字を参考にして

いる。

【B 委員】 「各家庭に配備する防災ハンドブックの作成」とあるがいつごろ配布の予定か。また、コロナ対策や垂直避難等についても詳しく書いていただけるとありがたい。

【泉原部長】 防災ハンドブックについては、15 年ほど前に作ったままだったため、それをリニューアルする計画である。配布期日は未定だが、できるだけ早く配布したいと思っており、コロナ対策や垂直避難についても記載したいと思っている。また前回のハンドブック作成後に起こった災害から得られた知識についても盛り込む予定。

【B 委員】 「元プロ野球選手による子供達を対象とした野球教室等の開催」について、ネームバリューのある選手がいると子供たちにも喜ばれると思うので費用の関係もあると思うがぜひお願いしたい。

【野村事務局長】この野球教室は全国自治体宝くじ主催のもので、元プロ野球選手 20 名についてはこちらで指定することはできないが、別の地域では過去の実績を見ると有名な選手にもお越しいただいております、今回もそういった方々にお越しいただけるのではないかと想定している。市としては主催者に対して負担金を支払う計画である。

【F 委員】 防災ハンドブックについて、実際の災害時はそれを持ち出すことは難しいので、スマートフォンからアクセスして閲覧可能な仕組みも考えていただけると非常に活用しやすいと思う。

【泉原部長】 防災ハンドブックは高齢の方もいるので本形式にはなるが、ホームページに掲載するなど検討させていただく。

【J 委員】 「魅力的な食をテーマにしたまちづくり」のなかに料理の魅せ方講座などいろいろあるが、観光などで来た人が飲食店を決める判断材料として第三者の評価が重要であり、最終的な目標はミシュランの星を取りにいくといったメッセージの付け加えも検討いただきたい。

また、「多重債務を防止するための F P 等専門職による個別のライフプラン教育支援」とあるが、子供に対しても中学生頃から金融リテラシーの教育に取り組んでいただけるとありがたい。

- 【沖畑教育長】 現在も学校教育の中で金融教育については進めており、今後も取り組んでいく。
- 【会長】 岐阜大学では4月から社会システム経営学環を立ち上げており、その学生もお金に関してすごく弱いと感じている。ぜひ金融教育を進めていただきたい。
- 【野村部長】 ミシュランなどの第三者機関の認証が重要であることは承知している。ハードルはかなり高いが、目標としては非常に大事だと思うので、飲食店の皆様とも意見交換しながら検討していきたい。
- 【亀谷委員】 「他地域との連携による飛騨市物産展の開催」とあるが、年に何回程度どの地域で開催を予定しているか具体的な案はあるか。
「民間賃貸住宅の建設促進補助制度の創設」について、アパートを建設する個人及び事業者に対しての支援は具体的にはどういったことを考えているか。
- 【畑上部長】 飛騨市物産展について、現在富山市やファボーレなどと協議をしており富山県は計画の中に入っている。また、小松市とも担当者レベルで協議を進めている。それ以外にも、愛知県や三重県なども検討している。回数や時期は現時点では未定である。
- 【森部長】 民間賃貸住宅の建設支援については、建設費の借入金に対して何%か補助するものと、賃貸住宅を建てた場合の固定資産税相当分の補助を想定している。また、補助する年数については現在検討中である。
- 【M委員】 「認知症VR体験会の開催」とあるが、VRの機械は大体どれくらい使ってやる予定か。また、例えば学校などで体験会を実施したい場合にVR機器の貸し出しは可能か。消防団に関して、消防団員の人員確保が問題となっており、団の統廃合の話もあるが何人以下にならないと合併できないといった話もあり、高齢になっても団を抜けられず困っているといった話も聞く。今後の団員報酬についての考えを聞かせてほしい。
- 【藤井部長】 認知症を一般の方に理解していただくには実体験の要素を加えたく、今回初の試みとしてVRを活用して1日の中で午前午後に分けて体験会を行いたいと考えている。事業者に委託してやっていただく想定であり、学校への機器の貸し出しについては、令和4年度実施しながら検討していきたい。
- 【中畑消防長】 消防団員については難しい問題であるが、支援団員も含め確保していきたいと考えている。統廃合についても人数によって統廃合といった決まりはないが、団の実情を考慮しながら統廃合も含め話し合いをしていきたいと考えている。
- 【会長】 消防団に関して、地域によっては操法の廃止を議論しているところもある。ただ操法をやりたい人もいれば、やりたくないが災害時などに地域には貢献したいという人がいるため、そういったところで消防団自身も柔軟に変わっていかないといけないと思うので、広く検討いただきたい。

- 【D委員】 「飛騨市ファンクラブサポートセンターの開設」について、神岡地区ではスカイドームをサポートセンターと位置付けるとあるが、現状でも人員確保ができておらず大変だと聞いているが今回新たに人員を配置する予定か。
- 【谷尻部長】 新たに人員を配置することは考えておらず、今いる方に対応していただくことになっている。業務量としてはあまり負担にならないと想定しているが実際の運営についてはよく現場の方と一緒に検討していきたい。
- 【D委員】 「移住者による住むとこネット掲載物件購入時の利子補給支援」について、住宅ローンの利息分を1%を上限に支援するとあるが、国の住宅ローンの控除の改正により、控除率が1%から0.7%下がっているが、それでも1%の補助となるのか。
- 【谷尻部長】 1%は上限のため、仮に利息が0.7%であれば0.7%の補助となる。
- 【D委員】 「江馬氏城館跡の活用促進のための、Wi-Fiフリースポットの整備」とあるが、高原郷土館の整備は考えているか。
- 【野村事務局長】 現在江馬館については様々な活用を試みており、高原郷土館についても入館料の見直しなどを考えており、今後も活用の仕方を検討していく。
- 【D委員】 「インクルーシブ遊具の整備」について坂巻公園と杉崎公園に整備とあるが、他の公園でも整備する予定はあるか。
- 【森部長】 インクルーシブの遊具については、整備費用がかかるため、少しずつ設備を増やしていこうと考えており、令和4年度については古川と神岡それぞれで一番大きい公園に整備したいと思っている。その後は状況を見ながら、様々な公園で整備を進めていきたいと考えている。
- 【D委員】 防災ハンドブックの作成について、この類のものは配布されてもなかなか見てもらえないと思うので、内容を工夫して特徴のあるものにするなど、見てもらえる仕組みをご検討いただきたい。
- 【泉原部長】 特徴あるものも検討させていただきたいと思うが、様々な防災事業や避難訓練の時などにハンドブックを利用していただくなど市民への啓発も考えていきたいと思っている。
- 【会長】 防災ハンドブックの活用については、防災は自助共助がベースであり、防災訓練の時に持ってきてもらって読んだりするなど地域側でもぜひ工夫していただければと思う。また、飛騨市には多くの防災士がいるので、そういった方々と連携して地域の防災訓練のあり方や個別避難計画なども進めていただきたい。また、避難訓練のパターンとしては参集訓練になるが、安否確認を目的とするならば参集できない方々の安否確認をすることが優先で、そうなるご近所やお隣同士で声掛けをして安否確認する

といった形も一つの防災訓練だと思っている。防災訓練の目的を考え、慣例にとられない形の防災訓練も検討いただき、地域の防災について考えていただければと思う。

【野村事務局長】先ほどのD委員のご質問に関して補足させていただく。高原郷土館のWi-Fiフリースポットの整備については、今神岡城のリニューアルにあわせて、現場でQRコードを読み込んで、動画を再生するといった試みも考えているので今後検討させていただきたい。

【会長】学校でもタブレットを配布しているので、防災訓練時に防災ハンドブックを生徒が読んでみるのもいいのではないかと思う。

～ 休憩 ～

【会長】会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題など、普段の生活でお困りのことも含め、会の代表のお立場でも一個人としても結構ですので、お一人ずつご意見を頂戴したい。

【A委員】現在の備蓄倉庫に空きスペースがなく昨年配布された水を置く場がないためハートピアに置いてある状態。他の区でも同様の話を聞いており、これでは備蓄品の意味をなさないと思うので改善をお願いしたい。

猫の多頭飼育崩壊により近隣住民や通行人が非常に迷惑している。区としても去勢手術などの対応をしているが追いつかないので対処いただきたい。

地域部活動について、現役世代の方に平日の夕方から部活の指導をお願いするのは無理があると思う。今後、指導者を探していくうえでの市の考え方を聞かせてほしい。

【B委員】3回目のワクチン接種が始まるとのことだが、時期はいつくらいになるのか教えていただきたい。

今からの時期かなり雪が降ることが予想されるが、雪の重みで枝が電線に引っ掛かる可能性がある。現在野口街道山側の木が綺麗に伐採してあるが、そのまま伐採が宮川方面まで進んではいけないか。

また、枝が電線に引っ掛かっているなど危ない場合に無条件で切ってしまってもいいのか、地主さんへの了解が必要なのか、また、その場合の市の対応についても伺いたい。

【C委員】私たちの地区の公民館には、市から数年前にもらった災害備蓄品としてアルファ米や水、非常時の介護用道具などが置いてあり、有効期限が2023年のものもあるがこういったものは期限が切れる前に取り換えていただけるのか。また懐中電灯の電池などは区が消耗品として購入し、維持していく認識でいいか教えていただきたい。

選挙の投票所について、宮川は5か所あるが河合は3か所であり今後は投票所も集約

して減らしていくべきだと考えるが、投票所までの距離が遠くなってしまおう方へシャトルバスなどを用意するなどの対策は取っていただければありがたい。

最後に、国道 360 号の祐宜ヶ沢上区 1 号トンネルについて 2 度路線の説明会があった。旧の水道の配管が道路下に走っているため、工事を進めていった場合にはその維持にまたご協力をいただきたい。

【D 委員】 神岡のスカイドームに飛騨市から観光案内を兼ねた職員を補充いただけないか。

【E 委員】 新型コロナ感染症の予防としてワクチン接種をこの春から進めており、3 回目の接種が開始される。高齢者接種については色々縛りが変わっており、接種時期に関してはワクチンの配布状況等も踏まえながらできるだけ早くできるような体制作りを進めているのもう少しお待ちいただきたい。また、ワクチンの種類もファイザー製とモデルナ製の 2 種類あり、3 回目接種では住民の皆様にご無理を言って希望していない方のワクチンをお願いする場合もあるのでご理解いただきたい。

飛騨市では様々なワクチンの助成金を出していただいております感謝申し上げます。带状疱疹のワクチンが今できており、罹ると痛みが強くでて生活能力がかなり下がる病気であるため、そちらのワクチンについても助成いただけるとありがたい。

また、RS ウイルス感染症について、1 歳未満の方が感染すると重症化して肺炎になって死に至る場合があるため、1 歳未満の検査は保険がきくが 1 歳を超えると保険がきかない。しかし、保育園児に感染があるかないかで保育園としての対応も変わってくると思うので、保険外ではあるがそういった検査ができる体制もお願いしたい。

神岡城のリニューアルについて、医師会でも照明を利用させていただき感謝申し上げますが、少し暗く感じたのでもっと明るく目立つようにしたらどうか。

様々な事業を紹介いただいたが、今の職員の人数でこの事業を割り振ってやるとなると 1 人当たりの業務量が多いと感じた。職員の増員なども含めその辺りの考え方を教えてほしい。

【F 委員】 介護職員の不足や処遇の低さが問題となっているなかで、処遇改善については国の施策もあり進んできたと感じている。その甲斐もあって介護分野へ就職を希望する方が若干増えてきたが、まだ十分には足りていない。介護は介護職員だけではなく、ケアマネージャーや生活相談員、調理員、事務員など様々な職種が絡んで介護を行っているなかで、ケアマネージャーについて数年前に資格取得の前提が厳格化され、なり手が少なくなっていると感じている。ケアマネジメントの質を担保するために研修も多く、それが日常業務に影響を及ぼすため休日出勤しているのが実情であり、研修体制の見直しなど処遇改善の部分を真剣に考えないといけないと思っている。また、生活相談員などの夜勤がない職種は、介護職員よりも手取りがすくないため、介護職員に相談員をお願いしても、子育て世代でお金が必要で夜勤がなくなるのは厳しいといった話もあるので、法人側としても介護全体としての処遇、或いは給与の均一化も考え

ていく必要があると思っている。加えて福祉分野での看護職員の数も圧倒的に足りておらず、これは喫緊の課題だと認識している。

外国人の労働者が市内でも増えてきていると思うが、その中で特にインドネシアなどのムスリムの方は食事に気を遣っておられ、例えば市内でハラフードを扱っている店があるのなら、そういった店の情報がネット上にでも掲載してあるとよいのではないかと思った。アフターコロナを見据えてそういった宗教や文化の違いの部分でもバックアップしていただけるとありがたい。

【G委員】

今年の防災訓練は水害が起りやすい時期の前である6月に実施したことで、もし災害があった場合でも速やかに行動ができる状態となる非常にいい時期だったと思う。飛騨市では避難所開設訓練を実施されたが、防災士会としても会員に各地区の見学と協力をお願いしており、見学に来ていた区長や町内会の役員からも勉強になったという声が多かった。コロナの対応として入り口で体調不良者を仕分けたり、別部屋を用意する必要もあると思うので、そういったレイアウトの検討等も含め、このような避難所の開設の訓練をできれば毎年開催していただきたい。

【H委員】

岐阜県が実施したまちづくりの先進地の視察研修で島根県へ行ってきたが、興味深い点や勉強になる点が非常に多かった。nodeにも時々視察の依頼があったり、飛騨市にも関係人口関係や広葉樹、薬草などでも視察に来る方も多いと聞いている。そうした中で、この視察や社員研修合宿など学べる観光みたいな部分で飛騨市がこれまで培ってきた経験や人が次の資源となりえるのではないかと感じている。来年度も観光関係に磨きをかける事業も計画されていると思うが、一般向けの観光のほかにも、世界的な観光地である高山や白川村に囲まれているので、飛騨市でなければ体験したり学んだりできないようなディープな観光ができたりすると面白いと感じた。

【I委員】

無料職業紹介所が商工会議所の中にあるが、担当していた職員が退職することになりその職員の後継者がいない状態である。商工会議所としてはなんとかサービスを継続したい思いがあり、岐阜労働局と飛騨市で雇用対策協定を結んでおられるのでその場で議題に挙げていただき、高山市のハローワークから月に何回か派遣いただくような形ができないか。

事業承継について、身内などで後継者がおらず、あきらめて倒産する事業者が増えていく。事業承継を内輪だけの話とせず、市外にも目を向けて移住者などに事業継承していただく取り組みについてもご検討をお願いしたい。

令和4年7月16日土曜日に商工会議所が70周年を迎える。記念式典・記念講演等も含め市のバックアップをお願いしたい。

神岡町船津の火災跡地の利用について、現状の市の考えを聞かせてほしい。また、西里商店街にある旅館に路線バスが突っ込んで入り口を壊してしまったという事がある

ったがここについても市として何か考えがあるのかお聞かせいただきたい。加えて、市道の融雪装置の増設について具体的な将来像があるのか伺いたい。

人口減少に伴い少子高齢化が進んでいるなかで、飛騨市には経済界として古川に商工会、神岡には商工会議所があるが、今後の関わりについて市長の考えをお聞かせいただきたい。

18歳以下の10万円の給付金について、現金給付だと貯金に回ってしまう懸念がある。例えば、給付金で市内で使える商品券を買ったらプレミアがつくといったこともご検討いただきたい。

国民に配られた布マスクについて、年明けより行政以外に団体にも配布が可能となるそうで、会議所としてもそれを受け取り、窓口になって配布をしようかと考えている。飛騨市ではそういったマスクを受け取っているか伺いたい。

【J委員】 新貴船橋を林昌寺方向へ渡ったところの道について、あの道は通学路になっているが横断歩道がない。数年前に警察にも要望し、その場所には設置することができないという返事だったが、確認をお願いしたい。また、式之町の本光寺前交差点も危険なポイントであり安全対策をお願いしたい。

世界の果てまでイッテQが来月放送されるが、今後飛騨をアピールするには幻の秘境みたいな場所を押しこいこうと思っており、観光協会としてYouTubeで発信したいと考えている。

【K委員】 森林林業に関して、厚いご支援をいただき感謝申し上げます。

令和3年3月の審議会でも再造林の森林整備の県補助がなくなるかもしれないという話をしたが、実際令和3年度は従来通りの補助があった。そして再造林は県の計画の30%しか進んでおらず、来年度はさらに補助率を10%上乘せして議案に上がるようになったことを報告させていただく。また、清流の国ぎふ森林・環境税については、12月の議会で令和8年度まで延長することとなった。

合葬墓について、最近飛騨市でも墓じまいをするといった話を聞く。ぜひ市民にアンケートを取っていただき、合葬墓の需要の調査をしていただいて要望が多いようなら市でも動いていただけたらと思っている。

【L委員】 中高連携の取り組みについては、中学校の立場からすると大変な恩恵に浴しており感謝申し上げます。これまでお互い無理のない範囲でやっていくスタンスをとっていたが、市として今後の展望を聞かせていただきたい。また、中高の先生の人事交流について、中学の先生が高校へ行き進路指導を勉強することが大事だと考えるので古川中学校と吉城高校でも可能なら人事交流を進めていただきたい。

ストリートスポーツ環境整備について、先ほどスケートボードの整備の話があったが、スケートボードとのすみわけで、昔あったようなハーフパイプやレールなどを整備して、若者が集まるスキー場の整備についても検討をお願いしたい。また、シーズ

ンオフ時の利用についても、リフトで流葉の国設までいけるといったことで資源の活用をするのもいいのではないかと思った。

地域資源の保全と活用について、飛越トンネルのところにある北アルプスのルートを活用して飛騨市としてもぜひ売り込んでいただきたい。

J委員から話のあった金融教育について、なかなか先生方では難しい部分なので積極的な推進をお願いしたい。

【M委員】 認知症に対する理解について、来年度VRでの認知症体験会を実施するということが、やはり大人だけでなく子どもにも学校などでそういった機会を設け、認知症の実態を知ってもらうことで、認知症の方に対する見方が変わり、地域で支える体制づくりも進んでいくと思うので検討いただきたい。

【N委員】 農業経営に関する資金援助として、米の減収に関する助成金や原油高対策として資金制度を速やかに作成いただき感謝申し上げます。
前回お話しした借地料の見直しについても、先日古川町の農業改良組合長総会の中で最後に市の方より説明をいただき、速やかなご対応に感謝申し上げます。

【O委員】 移住サイトの全面リニューアルについて、前回の会議時の意見が反映されて就職情報や福祉、子育ての情報も紐づけされるとのことだが、今回もかなりのボリュームの政策を拝見させていただき、就農や林業への就業に関する事業も出てきているので、そういった移住者に関連のある事業も移住サイトからすぐ見れるようにしていただけるとよいと思った。

飛騨市では幅広い年齢層の方が防災士の資格を取っておられるが、各事業所でも災害対策時のマニュアルを作って備えている中で、事業所に1人防災士の資格をもった方がいると非常に心強いので、市内の各企業・事業所でも防災士を取得していただくように取り組んだらどうか。

転職者の地元就職の促進支援について、現在人材不足や高齢化が問題となっているなかで、中途の方ももちろんだが若い方をどう取り込んでいくかを考える必要があると思う。地域の中に楽しめる場所があれば飛騨で働きたいと考える若い方が出てくると思っており、本日色々政策を見させていただいた中で、例えば空き家を活用してシェアハウスみたいなものを作り、そこに様々な業種の方が集まることで、地域のまちおこし活動に参加するなど、地域で楽しみながらいろんな人と交流できるような仕組み作りができるのではないかと思った。

今回の資料で政策のところに、SDGsのマークを付けていただいているが、まだSDGsが十分市民まで浸透しているとは言えないので、最初にSDGsのマークについて簡単な説明が書いたものが一覧になっているとより分かりやすくなると思った。

【会長】 市長からご意見を伺う。

【都竹市長】

A委員のお話で、ここ近年防災備蓄品を配布してきたが、防災備蓄倉庫の容量不足についてはこれまでそういった声がなく議論をしていなかった。ただ、令和4年度に集落有施設における倉庫の設置に対する補助制度を新たに設ける予定のため、その中身を考える中で対応できないか早速検討したい。

猫の多頭飼育崩壊については、市の地域課題解決に取り組む団体をふるさと納税の枠組みを活用して支援を行う事業を令和3年度に始めた。保護猫活動の事業が手を挙げてくださり、この事業に対してすでに1億以上のふるさと納税が集まっているので、確実に事業が立ち上がると思われる。事業内容も多岐にわたる提案がされており様々なサービスが計画されているので、期待してお待ちいただきたい。

地域部活動化の話は後程教育長からも補足していただきたいと思うが、令和8年度に完全に地域部活動へ移行する方向をとり、今のスポーツ協会が受け皿になってくると思う。お話にあったように指導者の確保が最大の課題であり焦点になってくるが、どちらにしても学校の部活動はこれ以上持たない状況であり、地域部活動化はやらざるを得ない状況なので、スポーツにしても文化活動にしても人の問題はこれから知恵を出し合いながら解決していく以外に道はないと思っており、危機感を共有しながら進めていきたいと思っている。

B委員からの3回目のワクチンについては、今すでに医療従事者のワクチンの接種を始めているところで高齢者は2月の中旬から接種を開始したいと思っている。2回目を打った日付は分かっているので、対象者は前回のように年齢で分けるのではなく、いつ打った人かで分けられてくるが、問題なのは対象者全員が打つかどうかははっきりしないこと。1、2回目は高齢者の予約に非常に苦勞したこともあり、日にち指定で行いたいと思っているが、キャンセルが多いと大量に余りが出てしまうので、事前にはがきを送付し意思確認をさせていただいた上でやりたいと考えており、現在準備している。先ほどE委員からの話でもあったように、ワクチンがファイザー製とモデルナ製の2種類ある中で、全員のご希望に応じたいところではあるが、飛騨市では接種者の9割以上がファイザーなのに対し、3回目接種で入ってくるのはファイザー6割モデルナ4割のため、希望に答えることは難しい。現状どちらを打っても特に問題はないとのことなので、日にちや医療機関などでワクチンの種類を指定していかざるを得ないと思っており、ただどうしてもこっちのワクチンを打ちたいと希望する方については調整するなど、ワクチン接種を進めていく中で意見があればやり方を変えていきながら進めていくことになるだろうと思っている。

国道471号の野口における木の伐採については、木が雪で倒れて電線に引っかかり停電になるところを計画的に伐採していく事業としてやったもので、どの場所を伐採するかは、電力会社と検討しながら決めている。令和4年度も引き続き実施予定だが、県の事業のため予算が限られている中でも、要望は多いので計画的にやっていきたいと思っている。また、木が倒れて電線に引っ掛かりそうなものについては地権者の了

解をとりながら交渉する必要があり、市がすぐに対応することは難しい。倒木の予防に対する補助制度を別途設けており、基本時には地権者の財産なので、その方にそれを活用しながらやっていただくことになるということでご理解いただきたい。

C委員のお話で備蓄品の配布については、期限があるものは更新していくよう考えているが、電池などについては各地区で利用するものなので対応をお願いしたい。

選挙の投票所の話は後程総務部長の方からお話しいただく。

一号トンネルについて現在県でも説明いただいている中で、水道等についても今後設計などをしていく段階で対応されていくため、あまりご心配する必要はないと思われる。また、そうした説明が具体的に始まる段階になれば市も県と一緒にサポートさせていただく。

D委員のスカイドームの観光案内については、今人が不足してるという話は聞いておらず、ファンクラブサポートセンターも仕事としてお願いをするということになっている。改めてよく状況を聞いて逼迫しているか確認したい。

E委員からの帯状疱疹のワクチンやRSウイルスの件については、早速検討させていただきたい。

神岡城は中の展示を見直す予定で、外の照明については考えておらず、費用面の問題もあるのでその辺り含め検討させていただきたい。

職員の業務量に伴っての増員の件については、人件費との兼ね合いもあり増やしたくても増やせないのが現状。職員が産休や家庭の事情で長期間の休みを取らないといけない場合でもカバーできるくらいには増員し、これ以上増やせないところまで来ているので、その中で上手に仕事を仕分けていくことになる。加えて、外注可能なものは外注に出すといった考え方でこの先取り組んでいきたいと思っている。

F委員のケアマネ不足については、昨年から重大な問題だと思っており様々な取り組みを行っているが、まだ決定打があるわけではない。確かに制度改正の影響で余計になり手が少なくなっているのも事実であると思われ、引き続き昨年から取り組んでいることを中心に、引き続き現場とよく話し合っ進めていきたい。

福祉分野での看護職員についても、同じく問題意識をもっており様々な募集を行っている。声掛けやアピール方法なども含め引き続き取り組んでいきたい。

ムスリムについて、ハラフードの問題については今まであまり認識していなかったので早速検討させていただく。飛騨市で委託しているインドネシア人の生活相談支援員にアドバイスなどもいただきながら困りごとなど実態を早速調べさせていただき、早急に手を打てるようにしたい。

G委員からの避難所開設訓練については、地区にとって一番大事なのは避難所開設の運営訓練で、実際にやってみて何が起こるかを考えながら訓練することが大事だと思

っているので、継続して取り組んでいきたい。防災士の皆さんにも、ぜひ引き続き一緒に取り組んでいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

H委員の視察に来る人へ向けの観光について、近頃視察事業が本当に増えてきており、町案内に時間をかけたり夜に飲んだりすることで、できるだけ泊まってもらう方向へ持っていきたいと思っている。飛騨市の場合、例えば広葉樹の学校を作り、そこに参加するという形で、視察を学校という形でプログラム化する取り組みもやっている。特に今関係人口・ファンクラブ系の視察はかなり多く、nodeにも少しずつ来ているということなのでまたさらに工夫していきたい。

I委員からの神岡の無料職業紹介所の件で、お話であったようなハローワークから人を派遣してもらう形のやり方についてはまだ十分な議論ができていない。商工会議所の意向を第一に踏まえたいと思うので、もしそうした形で継続されるのであれば、ハローワークとの連携などを検討していきたいと思っている。このあたりは令和4年度に向けてどういった取り組みをするか早急に整理しまとめたい。

市外の人による事業承継については、市としてもその方向で検討していた中で、現場の話を見ると、跡取りへの事業承継が圧倒的であるという話もあり、議論をする中でそうしたところへの意識づけの研修セミナーのようなものを実施していくところへ戻ってきている状態。ただ、市外からの事業承継の事例も実際にあるので、そこをどういう形でクローズアップするかについてはもう一度対応を考える。

神岡の火災跡地についてはできれば誰かに住んでもらう場所になるのが一番いいと思っているが、まだ最終的には決めておらず、市がやるのか、民間にやってもらうかも含め、いろんな手法を検討している。

それから西里バスで突っ込んだところについては、バス会社と所有者の話になるので市としては何かやる考えは持っていない。

船津地内の市道の融雪については、令和4年度設置可能場所や希望などを調査して、設置場所を定めていき令和5年度に設計して事業化の流れになる。

神岡商工会議所と古川町商工会への関わりについては、飛騨市経済連合会という緩やかな連携組織を立ち上げたいと以前より提案させていただいており、この冬のうちに動かしたいと思っている。事業の面で市の事業の受け皿でありながら、市内共通に関わるような問題を扱ったり、道路の国への要望についても飛騨市を挙げて道路要望していく必要があると思っているので、その母体になるような形での活動を想定している。

それから18歳以下の5万円給付については、飛騨市は5万円ずつ2回に分けて現金給付としており、この5万円給付をさるぼぼコインにチャージすることで15%のプレミアムをつけたいと考えている。さらに、飛騨市で一定額以上買い物していただいた方には、抽選でポイントが当たるといった形で市内への消費誘導を図りたい。

アベノマスクの団体配布の件は、市としては今のところ活用する方針はなく、むしろ

今、不織布のマスク着用を促しているため、このタイミングで布マスクを配布するのは難しいと考えている。

J委員の、林昌寺の横断歩道の件については早速どういった事情になっているか含め調べさせていただく。また、本光寺前の交差点について、見通しが悪く危ないところであることは承知しているが、県道と市道の境の部分であるため県土木とも調整したい。

市内にも秘境の地はいくつかあると思うので、そういったところを観光協会の力をお借りし発信したい。ちなみにニコイの大滝は大いに宣伝したいところではあるが、あそこに行くまでの道のりが非常に危険なため、人には言えない状態であることもご承知いただきたい。

K委員の合葬墓の件については、今はもう墓を建てる時代ではないので、遺骨を預けてお参りに行ける場の設置についても議論したが、すでにお寺で設置しているところもあるため、今回は和光園にある行旅死亡人や身寄りのない方など、基本的にはもう供養しない遺骨をいれる墓を用意するといったもの。ただ、墓じまいする方が急激に増えていることも承知しており、参りに行ける合同の納骨堂については、ご提案いただいた市民アンケートを含めどういった希望があるか等聞けるよう早速考えたい。また、宗派の問題もあるのでその辺り含め引き続きよく検討していく。

L委員からのお話で、中高連携については後程また教育長からもコメントいただくが、私としても中高連携をもっと広げたいと思っており、飛騨神と神中はいいが特に吉城との連携が弱いのでここをしっかりとやっていきたい。先生の人事交流で進路指導を学んでくるというのも非常に大事なご指摘をいただいた。タブレット教育や地域連携教育についても小中学校は進んでいるのに対し高校があまり進んでいないように感じるので、高校の先生が小中でやっていることを理解しておく必要があると思っており、まずは現場の先生と話しながら県などの意見も聞きつつ検討させていただきたい。

魅力あるスキー場の運営について、提案いただいたハーフパイプ設置やシーズンオフのリフト利用なども含め、指定管理者と相談しながら引き続き検討していきたい。飛越トンネル付近の北アルプスルートの話があったが、北ノ俣の山之村側から上がっていく部分が飛騨市の部分であり、自然環境資源の保護活用といった点からも手を入れていきたいと考えている。まずはどのように手を入れていくのがよいか手法や費用の面など多角的に検討したい。

金融教育の推進については、子どものうちからスマホなどで電子決済をするケースが増えており、現金を持たない分金銭感覚の概念が変わってきていると思うので、このあたりのテーマをまたよく考えたい。

M委員のお話で、子どもに対する認知症の教育は今年古川小などでも実施しており、小さな子どもでも大人を守れるといったお話があったが、これはとても大事な視点だと思うので、引き続きどう拡充を図っていくか学校現場とも相談しながら取り組んでいきたい。

N委員からはご意見はなかったが借地料と原油高のお話をいただき、特に原油高の融資は申し込みが多いとのことで、我々もやってよかったと思っている。借地料については私自身もかなり思いを持っているので、しっかり取り組んでいきたい。

O委員からのお話で、移住サイトの情報については他市にはない特色ある施策を紹介することは大事なことだと思うので、それも含め移住検討者へ魅力ある映り方になるよう工夫していきたい。

防災士について、各事業所に対して1人いるといいという話は全くその通りだと思った。これまで地区単位での議論をしていたが、事業所単位の防災士育成については早速考えたいと思うので、防災士会ともよく相談しながら検討する。

UIターン対策で、若い人たちが集まって話ができるたまり場のような場所があるといいのではということだが、nodeがサテライトオフィスのように仕事ができるしつらえをしている中で、様々な方が集う流れが少しずつできているので、nodeみたいな場所にそういった役割を担ってもらうのもありではないかと話を伺って感じた。

【沖畑教育長】 A委員からの地域部活動化については、持続可能な社会を作っていくにはやっていかなければならないことであるととらえている。地域と子どもが繋がることで、より地域に愛着を持つ子どもたちが育ち、地域の方々にとっても生きがいにもなると思っているので絶対に実現したいと思っている。確かに平日の夕方に空いてる人がいないというのはその通りで、まずは休日の部活動を地域に移行していき、平日でも実施可能な方法を検討しながら進めていきたい。

L委員からの中高連携の展望については、大まかには市長が先ほど答えた通りであるが、この2年間コロナの影響で関係づくりなどがかなり後退してしまった。まずはこれを元に戻しながらさらに地域部活動への移行もあるので中高の部活動連携も進めていきたい。その他の大胆な改革については、これから1年かけて高校と相談しながら新しい方策を考えていく。

スキー場に関して、小中学生のリフト無料化を昨年度からやっており、今年度は高校生まで拡充を考えている。昨年実施した時にはスキー場利用客がかなり増え、アンケートでもかなり好評だったのでこのリフト券無料化が若者の集まるきっかけになることを期待している。

【泉原部長】 C委員からの投票所の統合については、地域の合意が得られれば選挙管理委員会にか

けた上で統合が可能であり、実際今年畦畑投票区で、地域の方から投票所統合の要望があり、末広投票区での投票となった。またその場合の会場への送迎についても合わせて実施したいと思っている。

【会長】

委員の皆様には多くの意見をいただき感謝申し上げます。

教育長の話で中高の部活動連携の話があったが、スポ少から上がって中学で部活をしながらスポ少の子を指導していたような子たちが、卒業した後も関係をもって小学校のスポ少のコーチをするといった循環ができている例もよく聞くのでぜひ進めていただきたい。

令和4年4月から高校の新学習指導要領で探求学習が入ってくるが、危惧しているのは小中学生の子たちには社会課題に触れる環境がまだあるが、高校はそういった機会がすごく少ないと思っている。取り組んでいる高校もあるがそういったところには地域と高校をつなぐキーマンがいる地域で、県全体としてはふるさと教育の部分が弱いと思うので市長や教育長からも働きかけをしていただきたい。

子どものうちから認知症について知ることは非常に大事だと思っており、岐阜県でヘルプマークの普及啓発として子ども向け動画を作っている。認知症だけでなく支援が必要な人向けにはなるがこういったものもぜひ活用いただきたい。

事業所の防災について、県としては地域の商店に対してもBCPの推進をしているところであるが、事業継続の視点が強く防災としては少し弱いと思っている。防災は自助共助公助といわれているが、それに業助を加え、企業の方が社員向けに災害の備えを啓発する取り組みをすることで地域の防災も進んでいくと思うのでそういったことも推進いただきたい。

それでは、協議事項は以上となる。

6. その他

今後のスケジュールについて説明。（資料②）

7. 閉会【湯之下副市長】

委員の皆様には本日も長時間にわたり貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。今はウィズコロナの取り組みを進めているが、アフターコロナになってもコロナ前と同じようにはならないと感じており、今後とも委員の皆様にはあらゆる情報或いは提言をいただきたいと思っている。

それでは本日の会議を閉会する。